

色を塗り重ねて醸し出す 人生の深みと心の温かさ

「甲佐のシンボルである緑川と枯れ芭蕉を、油絵の独特の色の鮮やかさと深みを使って温かみが伝わる作品にしたかった」と語るのは、画家・松下繁子さん（浅井区）。

「甲佐のシンボルである緑川と枯れ芭蕉のはかなさを表現した『枯れ芭蕉のある風景』は、第2回示現会熊本支部公募展で県知事賞を受賞。油絵の魅力である色を塗り重ねることで葉の重なるの美しさや背景の川や山々の奥行きを際



松下 繁子さん
Matsushita Shigeo

〔浅井区〕

まつした しげこ / 甲佐町文化協会甲佐絵画クラブ所属。昨年の第2回示現会熊本支部公募展に出品した『枯れ芭蕉のある風景』で県知事賞を受賞。

立たせた。「35歳のとき、めいと一緒に行った絵画教室で学んだのがきっかけ。それから油絵一筋です」と振り返る松下さん。甲佐絵画クラブ（松井天一会長）に発足当初から所属し、同クラブ初代会長の本田建二郎さんの優しく温かいタッチの風景画にひかれ油絵にのめり込んだ。「絵を描いているときは、日常を忘れて集中

できるかけがないの時間。心が癒やされる人生の楽しみが1つです」と、自身の絵画への思いを笑顔で語る。「油絵は、ほかの絵画と違って塗り重ねていくことに色に深みを出すことができず、少し色を変えただけでも全体のバランスが崩れてしまうところが難しいです」と制作時の苦労を語る松下さん。「でも苦労した分、納得のいくまで描いた作品が完成したときの喜びはひとしおです」と絵を眺めながらほほえむ。6月9日（火）～14日（日）県立美術館分館での甲佐絵画クラブ結成35周年記念絵画展で、松下さんの作品も展示される。「絵画を通して人とのつながりが増え、仲間の絵を見るのが自分の絵を工夫するきっかけづくりにもなりました」と同クラブへの愛着を語る松下さん。「甲佐町にはモチーフにしたい風景がたくさんあるので、絵画クラブの仲間と一緒に楽しく描いて、絵を通して本町の温かさを伝えていきたいです」と、絵とともに歩む人生を思い描く。